歴史点描 45　丸亀城内御殿炎上　その1

　姫路市の南西に位置する網干に旧讃岐国丸亀藩の内播磨一万石の飛び地があり、播磨の支配地として陣屋（御茶屋）が興浜に設置され、その領地を網干組、川東組、川西組と三つの組に分け統治した。本国丸亀から派遣された陣屋詰めの上級武士の1人に渡邊家があり、その家に残されていた文書に『明治二年己巳十二月八日御殿焼込』と罫紙に書かれた冊子があった。「姫路市城内図書館資料室　渡邊聡家文書」

　新編丸亀市史には「明治 2 年（1869）12 月 7 日丸亀旧御殿から出火し、御殿と公廨（くがい）を全焼する」との記載がある。公廨とは官衙、官庁、役場の建物のことである。

　上記の冊子には『明治三年庚午正月二十一日　明治二年己巳十二月丸亀京極氏本邸失火　御殿向焼込ニ付為御見舞寸志金献上　御寸志金目録』と書かれている。しかし渡邊家資料では 12 月 8 日となっているが、これは網干が火事の報告を知った日時だと考えられる。

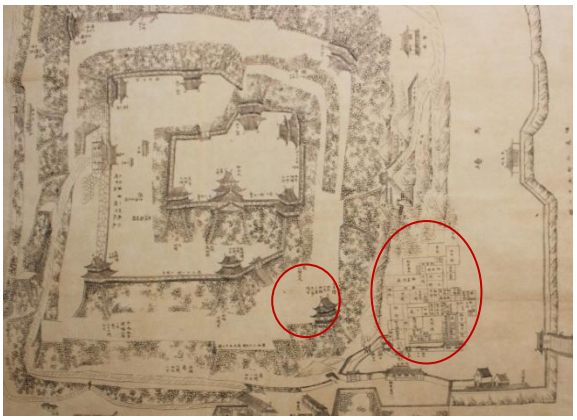
　城内御殿と公廨の場合はどこなのか。城内絵図など色々調べ丸亀市立資料館に問合せたところ、「丸亀市立資料館の建っている場所と向かいの芝生広場でほぼ間違いない」と返事が得られた。因みに芝生広場での発掘調査では燃えた木片が発掘されたそうだ。この時の火災により古文書類が失われ明治2年以前の記録が残っていないとのことである。

　同じ時に三ノ丸の戌亥櫓も焼失している。この場所には火事により変色した石垣が今も残っているそうである。また半年前の6月18日にも『城内の火薬庫の火災で門番3人死亡、2 人負傷した』（新編丸亀市史）との記載もある。武士達は新しい時代を迎え居場所を失う不安から城内警備などが手薄になっている様が想像される。だがその中でも旧領民達の元藩主への思いは少しも変わらず、火事見舞いへと素早い行動を起こしている。次回はその旧領民達の想いを見ていきたいと思う。

網干歴史講座会員　　新在家　森山式子

丸亀藩陣屋内石碑

「豊太閤乃於茶屋鶴松亭跡　併　丸亀藩京極家治所址」



讃岐圓亀蓬莱城図　　戌亥櫓と御殿

丸亀市立資料館蔵